

投資しアルミ板の生産に参入すると発表し、業生産を開始する予定。

鋼板とアルミ板の双方を造るのは世界でも神戸製鋼所と中国宝武鋼鉄集団、酒泉鋼鉄に限り、鉄鋼メーカー

サプライチェーンをアルミ板で活用。さらに新興企業のユニティ・アルミニウム(旧ブレイディ・インタストリーズ)と組み、アルミ関連の新電炉・薄板工場(異形棒鋼)販売価格アップが続く一方、事業を継続するために再生産可能な製品価格

SDIは、07年に鉄・非鉄スラップ大手のオムニソースを買収。近年はテキサス州シントンで立ち上げた(異形棒鋼)販売価格アップが続く一方、事業を継続するために再生産可能な製品価格

鉄筋最大手の共英製とすると発表した。上昇傾向で、同社は「適正な収益を確保し、事業を継続するために再生産可能な製品価格

鋼(社長・廣富靖以氏)コスト面は鉄スクラップ安が続く一方、再生産可能な製品価格

鋼(社長・廣富靖以氏)コスト面は鉄スクラップ安が続く一方、再生産可能な製品価格

15万 月単位で国内向け線材の価格を改定している。

上げを 顧客の要望もあり、9月11日契約から3カ月単位に戻す予定。

原料、

この諸

さ上昇

ロム系

吸収で

いてべ

に反映

糸は高

入着が

況を踏

ス値

US 4

6~8

計値上

3万円

口にな

の価格

イリン

日6

料価格

・クロ

の円換

月平均

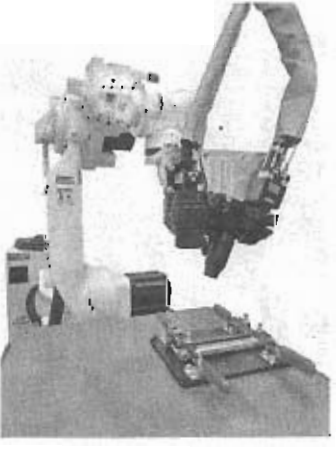
来3カ

未来を拓く 産学連携

溶接機器の製造を手掛けるダイヘン(本社・大阪市淀川区、社長・養毛正一郎氏)は、大阪大学と共同で、レーザ超音波法(以下LU T)による6ミ以下の薄板に適用可能な「溶接内部欠陥自動検出口ロボットシステム」を開発した。EV自動車の薄板化に対応する検出システムとして、国内外の自動車関連企業をターゲットに、2023年度中の製品化を目指す。

同技術は、同社が19年4月に大阪大学の接合科学研究所内に設置した「ダイヘン溶接・接合協働研究所」の研究成果。非接触で欠陥検出が可能なLUTに着目

大阪大学 × 「ダイヘン」の溶接機器メーカー



コンパクトなため、既存の生産ラインへ組み込むことも容易

薄板(6ミ以下)への適用実現

23年度中の製品化目指す

「溶接内部欠陥自動検出口ロボットシステム」

コンパクトなため、既存の生産ラインへ組み込むことも容易

非破壊検出、同研究所はLUTを採用。既存の生産ラインへ組み込むことが容易となるよう、ながら追いかけるように同波検査や放電検出システムの開発およびコンパクトに設計されている「インプロセス計測」の透過検査など、同システムは6軸多関節ロボットに搭載されており、現在、自動車の足回り部開発を進めており、溶接中品などで多用される亜鉛めっき鋼板の溶接部の内部欠陥検査は、抽出検査である発生を防止。また、不良発生では6ミに励起された超音波振動を、ロットの生を感知すると溶接条件を未滿の薄板レーザ干涉計が受信し、内中から製品を抜き取り、溶接部を切断して直接確認する機能も追加していく考えへの適応が、部の傷やブローホール(空接部を切断して直接確認する機能も追加していく考え。人手・時間・コストがだ。

溶接機メーカーの「ダイヘン」 × 大阪大学

し、生産ラインへの適応性 難しく、探触子と呼ばれる 洞欠陥)を通過する際の振動の変化を解析することで、検査コストの大幅な削減につながる。

現在製品化に向け、さら

減につながる。

製品廃棄が不要となるた

触れずに検査」をキャッチ

フレースに、幅広いマーケ

ットに向けて研究を進めて

いくとしている。

(山浦 なつき)

当企画は不定期で掲載

します。